

<報告事項①>

浜益学園の校章デザインについて

1. 経過

- ・ 昨年10月に開催した令和6年度第3回浜益学園開校準備部会において、校章デザインを浜益中学校の生徒に依頼することを決定した。これを受けて、同中学校石井教諭、集落支援員柿岡氏に、デザインを行う上での生徒の支援を行うよう依頼した。
- ・ 浜益中学校美術部生徒3名が中心となり、校章案の作成を進めていたところ、令和7年2月27日に、浜益中学校において、美術部の生徒より最終案の提示とデザインに込められた想いについて説明がされた。これに対し、浜益中学校全生徒が最終案に賛同した。
- ・ 令和7年3月11日に、令和6年度第4回浜益学園開校準備部会が開催され、校章最終案が提案された。浜益中学校美術部3名の生徒も参加し、デザインに込められた想いが説明された。その結果、生徒提出の最終案を、準備部会の校章案として採用することを全会一致で決定した。

2. 校章デザイン

●カラー



○白黒



【デザインに込められた想い】

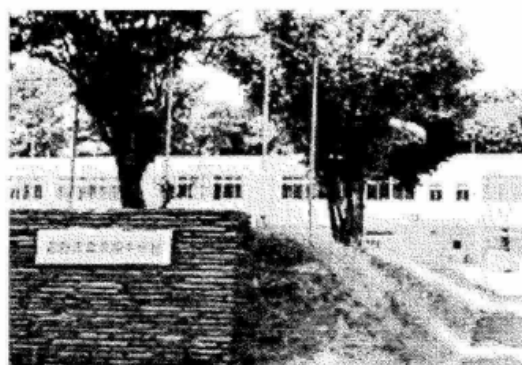
●右側の波は海の幸に恵まれた郷土を示し、伝統を守っていくことを求めている。
●浜益の頭文字であるHは黄金山を連想させ、豊かな自然が広がっていることを意味し、自然とともに大きく育つことを願っている。
●囲んでいる稲は幸豊かな五穀を表している。
●中央下の桜は敷地内に植えられている桜であり、確かな学力、豊かな心、健やかな体を育んでいく浜益学園の児童・生徒たちを意味している。ふるさとに学んだ子どもたちが花開き、たくましく生きていくことを表願している。

石狩市立浜益中学校



制定 昭和26年4月

・周囲は稲と波を図案化したもので、北の郷・幸豊かな五穀、そして潮とどろく海の幸に恵まれた理想郷を意味し、その中に、浜中が厳然と伝統を維持することを希求している。
・中心のHは、浜益の頭文字のHで、将来に向かって無限の広がりを象徴。
・中をHの上にし、浜益の未来を担う若人の力、中学生を意味する。

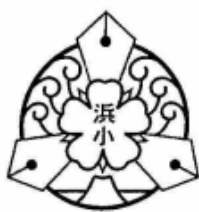


【所在地】 石狩市浜益区浜益50番地22

戦後の新学制により、昭和22年浜益（茂生）地区に浜益小学校校舎に併置されて開校した。浜益地区の拠点校として、当初は幌・尻苗・濃昼・実田・浜東の分校を有していたが、昭和29年に各学校は独立校となった。昭和26年に川下地区に校舎が落成し独立移転した。その後浜益村にあった他の中学校は、独立統合が進み、平成11年4月幌中を浜益中学校に統合してからは浜益村唯一の中学校となった。

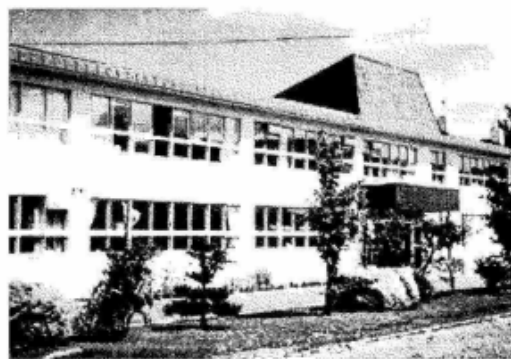
平成23年8月、道立浜益高等学校閉校後の校舎に移転して現在に至る。

石狩市立浜益小学校



制定 平成11年11月21日

三本のペンは統合3校の子どもたちが、仲良く希望を持って勉学に励むことを願い、波は日本海の恵みとともに、自然の厳しさに立ち向かう力強さを表現している。ハマナスは風雪に耐え抜く強い心を、黄金山は、浜益の気高さ誇りを表している。そして、周りを包む輪は、全体の結束を表現している。全体として、浜益の子どもたちが、力を合わせ、助け合いながら学習や活動に励み、北国の厳しい自然に打ち勝つ強い心と体をつくって、豊かな心を持ち、たくましく生きていく人に成長していくことを願っている。



【所在地】 石狩市浜益区柏木1番地17

浜益はニシン漁場として繁栄し、海岸部を中心に最大で11校の小学校が存在していた、人口減少と少子高齢化が進む中、昭和40年には黄金小、中央小、北部小の3校に整理統合したが、それでも各学校の複式化を避けることができず、平成11年に村内の学校を一つに統合することになった。

当時、高校が浜益地区、中学校が川下地区にあったことと、校舎が新しかったことから、柏木地区の黄金小学校校舎を利用し、3校を対等統合し、名称は浜益村唯一の学校として「浜益小学校」を復活させ新設校として平成11年に開校した。

浜益小学校は、最新の情報機器を活用した僻地教育の先進校としてだけでなく、日本遺産構成文化財に認定された「沖揚げ音頭」を伝承し、地域の伝統を今に伝える教育活動でも注目を集めている。